

実施主体、事業名などの概要

- ・事業名：山都の有機農業をとおして体験・交流する「たべる-まなぶ-つながる-そだてる」の良好な環境関係人口創出プロジェクト
- ・実施主体：株式会社 山都竹琉 ・対象地域：熊本県山都町 ・対象とする良好な環境：自然共生サイト

地域の現状・課題

- ・農業を中心とした生活環境、自然環境や伝統、歴史文化を維持保全しており、これらの維持保全のために様々な活動、課題解決に取り組んでいるが、**インバウンド観光の受入体制のみならず、国内における農産物を通じた都市農村交流と魅力発信も不十分。**
- ・販路開拓や地域住民及び事業者の観光受入体制構築が必要。

目指すべき姿（中長期ビジョン）

有機農産物の食料産地のみならず、地域における過ごし方の付加価値向上に資する観光コンテンツづくりに取り組み、**良好な環境、有機の里、オーガニックライフスタイルのまち山都町**として、**社会や環境にやさしい行動そのものに価値を見いだす滞在型体験を増やし来町者の増加と共にSDGsのまちづくりにつながることを目指していく。**

実施項目（事業内での取組）

- ①ターゲットに向けた販路構築：多言語化ツール整備と実装
- ②**インバウンド農泊の実証**：モニターツアー実施
- ③受入体制構築：**モデルルート開発、ガイド養成、民泊参画施設の拡充**
- ④海外におけるエコツアー現地調査：**大使館へのモニターツアーPR**



R8：コンテンツの磨き上げ

実施項目（事業内での取組）

- ①地域ストーリー調査事業：認知度向上
 - ・東京都内学校への事業PR
 - ・多言語化ツール整備着手
 - ・インバウンド対応に向けた食開発
- ②受入体制構築：モニターツアー、ガイド養成、民泊参画施設拡充の検討
- ③海外におけるエコツアー現地調査・PR

R7：コンテンツ造成

R9：販売促進

（事業期間終了後）



実施項目（自走化）

- ①ターゲットに向けた販路開拓：企業や学校など環境に注力する団体に向けた**エコスタディーツアーの外販（国内外対象）**
 - ・多言語化ツールのブラッシュアップ
- ②体験コンテンツ拡充とガイド養成、民泊施設の更なる拡充
- ③大使館等へのモニターツアーPR

対象となる良好な環境の概要

- 九州のど真ん中の中山間準高冷地、総面積の7割が山林・原野、田・畑2割、人口1万千人、過疎化が進む農業と林業が基幹産業の典型的な中山間地域。
- 50年以上にわたり有機農業に取り組む地域、**有機農業日本一の里**、日本最大級の石造りアーチ水路橋の**国宝：通潤橋**をはじめ、**棚田百選2カ所選定**、**人形浄瑠璃「清和文楽」**、**250年続く八朔祭**など、**日本の原風景と農村文化が残されている稀有な地域**。
- 1986年から37年間に及ぶ子供たちとの自然観察会が継続され（環境省：令和5年度 大気・水・土壌環境保全活動功労賞受賞）、適切な手入れや管理をしながら環境にやさしい農林業、有機農業の里を牽引。2023年、自然共生サイトに「Present Tree in くまもと山都」が認定された。**

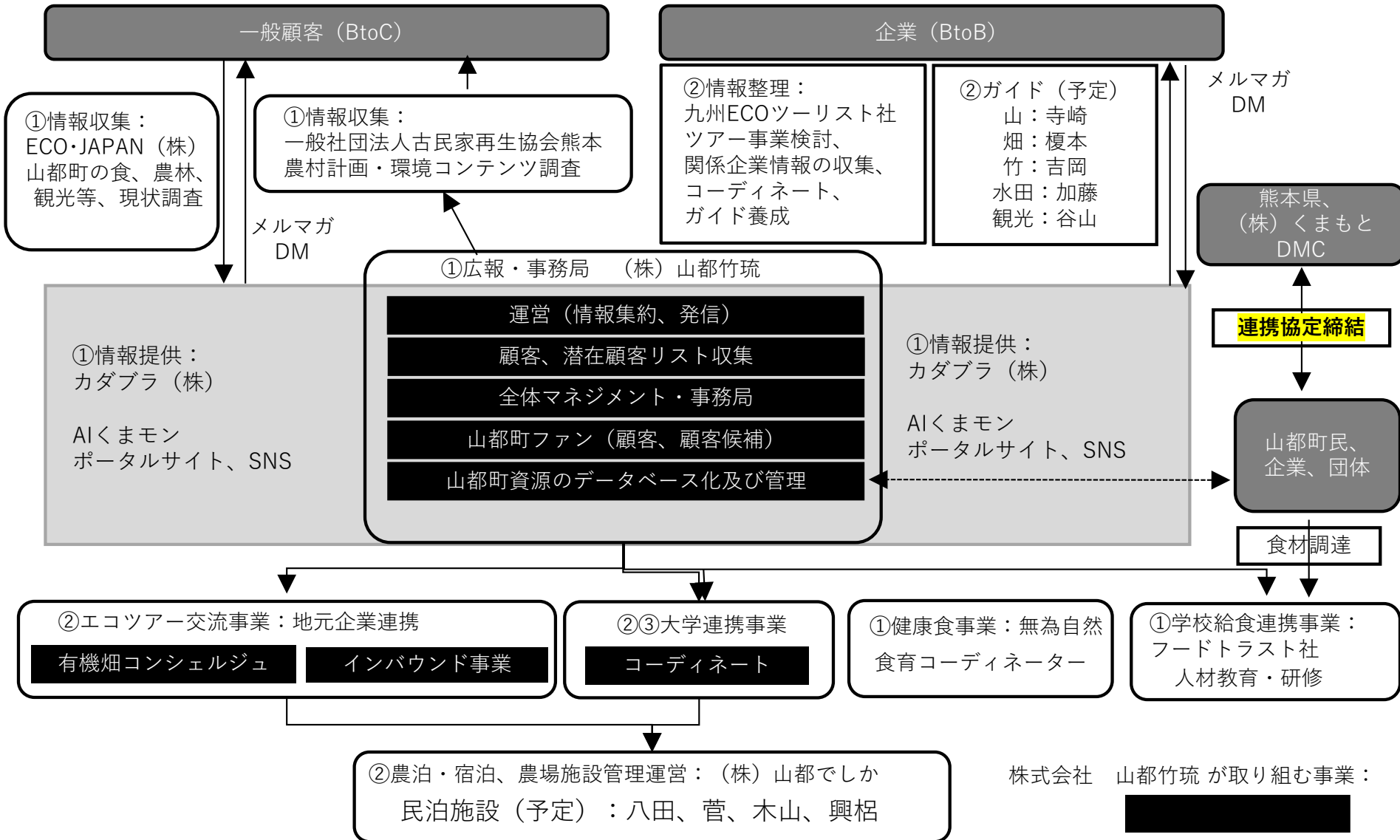


良好な環境に係るストーリー

山都町の原風景保全と生物多様性の意識を育てる（たべる、なまぶ、つながる）地域ストーリーの構築

- 生物の源となる命の水を軸として、**国宝：通潤橋建設の歴史をひもときながら、通潤用水の源流域が郷土史伝承会の資料によって、当該地域が稲作文化の発祥の地（天照大御神の伝承）であることが判明し、水の流れに伴う文化歴史に新たな光が見え始めている。**また、希少な動植物自体が良好な環境を紡いできた生き証人と言え、無農薬の田んぼには**ゲンゴロウやタガメなど水生生物が多く生息し、希少な野草薬草が群生し、日本カモシカが生息するという稀有な自然共生エリアである。**
- 国宝の通潤橋を潤す源流域の田んぼに入り、竹資源を活用した「かぐや米」の羽釜ごはんを**食べる**、治山治水や水の流れの仕組みを理解し稲作体験を通じて**学ぶ**、歴史と文化と大地との**つながり**、都市と農村との人の**つながり**を実感しながら、日本一の有機農業の産地を食べ支え**育てる**、日本の原風景を遺しネイチャーポジティブの芽生えを**育てる**「**食べる、学ぶ、つながる、育てる**」を軸にしたモデルルートの観光開発に着手する。

実施体制（図示）



【R7年度取組】

①地域ストーリーの確立

- ・地域ストーリーの整理・検証・磨き上げ・認知度向上のための調査事業
- ・農的暮らし情報発信体制：オガコックライフスタイルEXPO東京（10/2-10/4）に出店、事業PR、モニター呼びかけ、**民泊時の食事提供を想定したレシピ開発試食を実施。（別紙）**

③海外大学企業販路拡大

- ・海外エコツアー現地調査、バリ島の世界文化遺産の棚田、台湾教育ファーム視察
- ・インドネシアのナショナル大学、国立台北科技大学、高雄の樹徳大学を訪問、エコツアーの動向調査を実施（10/26-11/3）

①東京都内学校事業PR

- ・オガコックライフスタイルEXPO東京、有機農業日本最大10周年目イベントに出店、**都内学校給食関係者と打合せ実施。**
- ・東京都内の学校給食への事業PR 2回：**12/22に世田谷区と大田区の学校給食関係者、12/23に東京農業大学付属の稲花小学校校長、事務長にPR**

①多言語ツール整備

- ・多言語対応の情報発信ツール整備、コンテンツ作成に着手、①複数言語の文字・音声の質問受入、②チャットツール開発、③生成AI回答と入力言語へ翻訳機能など
- ・モニターツアー、ガイド養成受入体制構築、スルー・スポットガイド人材掘り起こしリスト化（山:寺崎、畑:榎本、竹:加藤）

特に工夫した点・取組成果

- ・有識者アドバイスを受け、地域ストーリーの**強みや得意な分野を伸ばすべく販路開拓に向けてターゲットの絞込み。****ファミリー、企業、コアファン**
- ・有機農業日本一の取り組み、水源地エコツアー紹介、清流産の有機玄米とレシピ開発した即席玄米リゾットを試食。**ドイツからの留学生や台湾の方々に興味を示し、手ごたえを実感**

特に工夫した点・取組成果

バリ開催の環境学会へ参加、事業PRとともにインドネシア内の大学・民間事業者と交流。

台北科技大の王教授の紹介で教育ファームや野鳥観察専門ツアー会社を訪問、トレンド確認と台湾・熊本との双方向の事業協力に向けた話ができた。**次年度に両同大使館へのインバウンド誘客強化を検討予定。**

特に工夫した点・取組成果

良好な水やお米（有機玄米）について環境への意識が高く、世田谷区の住民からは学校給食の連携強化の強い要望を受け、第2のふるさと構想（ふるさと住民登録制度）やモニターを呼びかけたところ、好印象。
世田谷区内の学校給食に山都町の有機米が使用されているため、生産者・生産地PRへつなげる。

特に工夫した点・取組成果

地域調査で収集した素材やコンテンツを**多言語化・情報発信を可能にするツールを開発しプレイス中、次年度に向けた情報発信体制を整備。（別紙）**

10/11-10/12に留学生を対象にモニターを実施し、インバウンド受入民泊施設を拡充していく上で、多言語ツールの必要性を実感。

R7年度のゴール

①地域ストーリーコンテンツの整理、②モニターツアーを通じて既存プログラムのブラッシュアップとガイド発掘・選定、③海外交流及び事業PR・ネットワークづくり

課題

- ・ターゲットの絞込みに加え、継承したい事柄を意識し、ストーリーコンテンツのブラ
- ・スポット、スルーのガイド人材の発掘と育成
- ・販売に向けた体制整備（販路構築・地域の受け入れ態勢、受入施設の拡充など）

オガコックライフスタイルEXPO東京出店様子



- ・ **地域ストーリーコンテンツ整理「（オーガニックライフスタイル：たべる-まなぶ-つながる-そだてる）」**（別添資料：調査委託）
自然素材、水、山、薬草、米、通潤橋のほか、自然にまつわる民話など地域に内在するコト、モノを洗い出し、ガイド利用のための資料化を実施。
- ・ **オーガニックEXPOへの出展 10月2-4日の3日間@東京都立産業貿易センター**
山都町の棚田や産有機玄米、自然体験プログラムなどをPRし、3日間で2万人の来場客
・ドイツ留学生や台湾からの来場者から好評、水源探訪ツアーへの関心高い傾向。
- ・ **民泊施設で提供するレシピ開発2品：有機レトルト加工食品試作含む（別添資料）**
10/11-10/12の留学生モニターツアーにおいて朝食提供。（事業委託）
- ・ **東京都内の学校給食における事業PR（2回）**
12/22に世田谷区、大田区の学校給食関係者、12/23に東京農業大学付属の稲花小学校への事業PRを行った。稲花小学校では事務長、校長との意見交換を通して、学校給食への有機米提供も含めて、産地PRとともに修学旅行を視野に入れた教育ツアーへの検討を続ける。
- ・ **良好な環境を知る機会の提供・DX化（情報発信の多言語変換ツール作成：別添資料）**
町提供のデジタルマップや、観光コンテンツのインバウンド対策活用について町と協議。

課題

ターゲットの絞込みに加え、地域内でできること、やってきたこと、遺したい事象、継承したい事柄を意識しながら、ストーリーコンテンツのブラッシュアップを行う。

ストーリー構築プロセス

目的

有機農的暮らしの情報発信体制（オガニックイスタル）構築に向けて「有機農業の里の形成過程」、「通潤橋の建設及び維持管理」、「植林及び水源涵養と水を活用した地域形成の歴史」、東アジアを含めた有機農産物（民泊提供想定）など、地域ストーリーの整理・検証・磨き上げの調査実施し、合併前の町史文献調査や郷土史伝承会へのヒアリング及び現地踏査を実施。

結果

- ・有識者アドバイスを受け、地域ストーリーの**強みや得意な分野を伸ばすべく販路開拓に向けてターゲットの絞込み。ファミリー、企業、コアファン**
- ・国宝：通潤橋の源流水汲みエコツアー、治山治水の清流産の有機玄米とレシピ開発を包含する**水を軸にしたストーリーで、留学生による手応えを実感。**

地域ストーリーコンテンツ調査：概要（詳細：別添資料）

目的

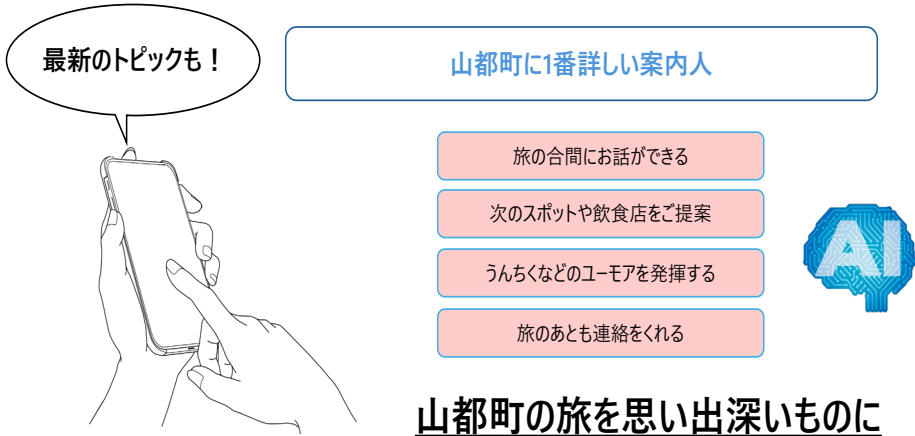
50年以上の有機農業の歴史を持つ「有機農業日本一の里」山都町の良好な環境を核とし、この稀少な環境を、単なる観光資源としてではなく、ネイチャーポジティブ（自然再興）に貢献する滞在型体験としてインバウンド向けに再構築し、単なる消費型の観光ではなく、観光客が地域の自然や生活文化の再生に寄与する「リジェネラティブ・ツーリズム」を目指す。

実施内容

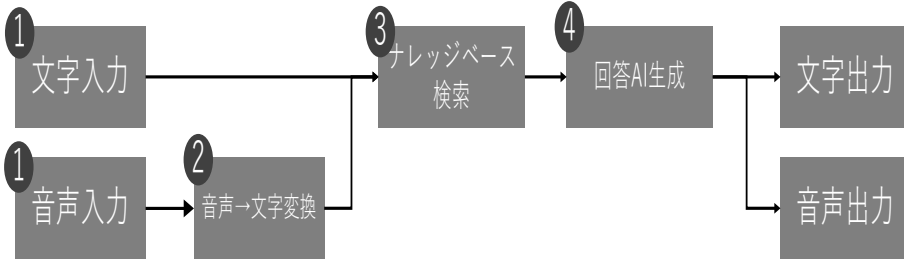
- インバウンド向けコンテンツ素材の発掘・磨き上げ
 - ・コンテンツ開発のための現地調査（現地フィールドワーク、意見交換、レポート作成など）
 - ・コンテンツ開発に必要な素材収集・ピックアップ・分析（山の資源、水の資源、古民家等を活用）
- インバウンド向けコンテンツの企画立案
 - ・モデルコースの検討、コンテンツタリフの作成

観光DX：AIくまモンサイト試行版（別添資料） 山都町の理解促進に繋がる多言語ツール開発

多言語ツールとは



山都町の旅を思い出深いものに



- ① 複数言語での文字・音声での質問入力を受け付ける
 - ② NICT(情報通信研究機構)の音声変換エンジンを利用し、音声から文字への変換及び日本語への翻訳を行う
 - ③ ナレッジベースを検索し、回答の準備を行う
ナレッジベースは各種観光情報、統計データを基に構築する
 - ④ 生成AIにて回答の作成、入力言語への翻訳を行う
- ※機能には将来的に開発するものも含む

開発スケジュール

※今年度はプロトタイプ作成を目標とし、コンテンツ整備、回答精度向上は次年度以降。

	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3
チャットツール開発	→					
ナレッジベース構築		→				
回答プロンプト開発				→		
テスト						→

オーガニックライフスタイルEXPO東京出展（10/2-10/4）

目的

農的暮らし情報発信体制として、10周年を迎えるオーガニックライフスタイルEXPO東京に出店し、事業PR、有機農業日本一の取り組み、水源地エコツアー・モニターツアー呼びかけ紹介、民泊時の食事提供を想定したレシピ開発食品：清流産の有機玄米と即席玄米リゾットの試食を行った。

結果

- ・ **良好な水やお米（有機玄米）について環境への意識が高く、世田谷区の住民からは学校給食の連携強化の強い要望を受け、第2のふるさと構想（ふるさと住民登録制度）やモニターツアーを呼びかけたところ好印象で、ドイツからの留学生や台湾の方々が興味を示し、手ごたえを実感した。世田谷、品川、新宿区の学校給食の有機化進展中。**
- ・ 有識者アドバイスを受け、地域ストーリーの**強みや得意な分野を伸ばすべく水を軸にしたストーリーで、源流への水汲み稲作体験への強い要望を実感する契機となった。**

インバウンド向け食品開発（民泊時の食事提供想定）：別添資料

ターゲット

- ・ インバウンドの方、日本の味を持ち帰りたい人
- ・ 時間がなく、カンタンに食事を済ませたい人
- ・ 災害時用の非常食となるもの

コンセプト

- ・ 身体に優しいものをつくる
- ・ 余計なものはいれない（添加物、保存料他）
- ・ 有機玄米にこだわる



オールイン碗
（味噌味 鰹節 焼き米10g）



学校給食PR2回・出前講座

概要

- 10/3のオガニックライフスタイルEXPO東京、有機農業日本最大10周年イベントに出店し、都内学校給食関係者と下打合せを実施した。
- 東京都内の学校給食への事業PR 2回：12/22に世田谷区と大田区の学校給食関係者3名、12/23に東京農業大学付属、稲花小学校の杉原校長、岩本事務長に事業PRを実施。

結果

- 有機農産物の学校給食導入は始まったばかりで、原料調達が難しいことから全区実施には難しいとの見方。しかしながら、少しずつではあるが、学校給食のあり方が変化しているため、給食の原料となる良好な環境によって育まれた農産物の生産側に意識をはたらかせることは、児童を通して親の食農教育につながり、稲花小学校では教育旅行として、親子で参加できる生産地を訪ねる企画があるとのこと。
- インフルエンザによる学級閉鎖時期と重なり、出前講座は実施できなかった。稲花小学校の学校給食では、食材の比較や素材についてのクイズで児童の興味を持たせるなど様々な工夫がされ、身体（細胞も心も）をつくるのは、食物からと、子供達のためによりよい食を届けたいという学校側の熱い想いや真摯な姿勢を伺い知ることができた。
- 有識者FBを踏まえ、地元の近隣の学校へのアプローチとして、1月21日に矢部高校において有機米の魅力（味力）を楽しむ座談会を開催し、本事業のPRを実施した。玄米の栄養バランスの良さ、有機玄米の食べ比べ魅力（味力）を再認識し、良好な環境により育まれる食物の重要性を理解した。

12/22 世田谷・太田区の学校給食関係者とオールイン椀試食の様子



12/23 稲花小学校 岩本事務長との学校給食意見交換の様子



12/23 稲花小学校給食の献立メニュー関連する調味料のクイズ



1/21 矢部高校における有機米の魅力を楽しむ座談会

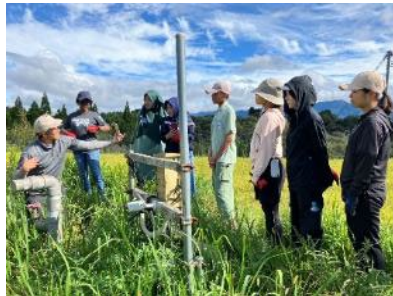


留学生モニターツアー1回目の様子や参加者からのFB内容と改善点

令和7年10月11日 10:00～15:00 モニターツアー参加者：留学生・学生10名



①水源地にて 治山治水
(水の流れ概略を理解)



②水原地上部の田んぼ
(利水状況を理解)



③雑草・草取り体験前説明
(無農薬稲作の現状理解)



④雑草・草取り体験後
(作業後の達成感・自分事へ)



⑤通潤橋田んぼの稲作体験
(通潤橋と水源地の繋がりを理解)



⑥稲作体験
(木村知事参加)



⑦夕食 バーベキュー
(ハラル対応、ジビエ、有機米・野菜)



⑧民泊 日本家屋
(異文化交流)

アンケート 結果

インドネシアからの留学生40代女性 F氏親子

- ・水源地で湧き水を飲み、草取り稲刈り、ジビエBBQも初体験でした。夕食と朝食時のハラル対応の気遣いと、**ジビエのシカ肉、おいしかったです。**水銀研究留学生として熊本に来ているので、研究関係者にとって本体験は、親子にとっても貴重な価値ある経験になり、**通潤橋架橋の歴史や水の流れを知りたくなりました。**

ガーナからの留学生40代女性 P氏

- ・民泊時の言語問題はスマホアプリで簡単な意思疎通は可能ですが、**ホストが親切だったのでもっと交流を深めたいと思いましたので、多言語ツールに期待しています。**
- ・夕食時の場所の展望もよく、周りの音も聞こえず、人工物がほぼ見えない非日常感を味わう場所がたくさんある町だと思いました。**夕方、日の落ちる時間はとても綺麗でしたので、豊かな自然を活かしたキャンプやサイクリング体験、稲の種播きから体験してみたいです。**

留学生モニターツアー2回目の様子や参加者からのFB内容

令和8年1月24日 10:00～18:00 モニターツアー参加者：留学生・学生8名



①放棄竹林整備視察
(吉岡氏の竹林ガイド)



②峰棚田散策と竹工場視察
(かぐや米の竹堆肥製造)



③山都でしか農泊説明
(八田氏の農泊ガイド)



④観光農園：なかはた農園視察
(6次産業化の取組)



⑤集落維持と廃校跡地利用
(中畠氏ガイド)



⑥農業体験
(いちご狩り体験)



⑦苺パフェ作り体験
(東農大卒の池田氏ガイド)



⑧山都でしか民泊施設
(羽釜飯体験：榎本氏ガイド)

- ・モニターツアーを通して、竹林整備の吉岡氏、農泊事業を手掛ける八田代表と榎本氏、なかはた農園で働く中畠代表と池田氏、水田ガイド志望の加藤氏らにスポットガイドを依頼して、エコツアーを企画。
- ・経験を積むことでガイドの質向上が期待される。

アンケート結果

ベトナムからの留学生30代女性

ベトナムにも竹はありますが、お米に利用している事例は初めて聞きました。雪の中の竹林や棚田散策体験、**農業体験では、イチゴ栽培の様子やパフェ作りなど、おいしく楽しめる工夫がされていて、通訳がなくても理解しやすい工夫がされていました。**羽釜炊飯とシシ鍋はとても美味しく、お米の炊き立ての香りは、印象が強かったです。**竹とお米のつながり、資源の利活用が理解できましたので、ぜひ、稲の種播きから体験してみたいです。**

ファミリー向けモニターツアー1回目の様子や参加者からのFB内容

令和7年9月11日 9:00～16:00 モニターツアー参加者：学生90名、帯同スタッフ9名、受入スタッフ11名

- ・山都町の矢部、清和、蘇陽の3地区に30名づつに分かれ、ロゲイニングによる観光客誘致、清和文楽体験・清和天文台、ジビエ普及活動、いちご農園・トマト農園視察など現地散策しながら**学び**、昼食には有機農産物を使った発酵丼やサラダ、煮しめ弁当、ジビエカレーを**食べ**、人と地域と自然環境との**つながり**を強く実感するエコツアーとなった。
- ・スポットガイドとして、なかはた農園で働く中畠代表と池田氏、発酵食の下田氏、トマト農園の梶原氏と春木氏、ジビエ工房の岩田氏、清和文楽の飯星氏、ロゲイニングの寺崎氏と他力氏、コーディネートの兼瀬氏と野口の11名で対応し、ガイド経験を積むことでブラッシュアップされ、ガイドを**育てる**ことにつながっている。

日/時	10			11			12			13			14			15				
コース① 矢部地区 (30名) +3名	～10:00 鮎の瀬大橋到着	10:00～10:30 鮎の瀬大橋見学	10:30～11:00 バス移動	11:00～12:30 文化の森:浜町散策説明(野口) ※学生は12:30までに通潤橋広場へ移動し昼食 5名@6グループ			12:30～13:30 昼食@通潤橋広場			13:00 通潤橋放水			13:30～13:45 バス移動			14:00～15:00 食農観光体験 ▽イチゴ観光農園・廃校利用活動の全体概要の説明(中畠由博・友美)@なかはた農園 ▽食育・環境活動の説明(下田円、野口)@旧下矢部東部小学校			15:00～移動@道の駅通潤橋へ	15:30～バス乗車@県大へ
	バス	アユノセカフェ停車		文化の森停車			通潤橋駐車場			バス	バックカントリーラボ株式会社(なかはた農園)に停車			バス						
コース② 清和地区 (30名) +3名	～10:00 ジビエ工房到着	10:00～10:45 ジビエ説明(岩田、内田)	10:45～11:00 バス移動	11:00～11:45 文楽体験説明(飯星、上田) 5名@6グループ		11:45～12:15 大川阿蘇神社見学(木野)	12:15～12:30 バス移動	12:30～13:45 清和高原天文台(昼食) 清和高原天文台の見学(30分)			13:45～14:00 乗用車移動		14:00～15:00 ▽すこやか自然農園 有機トマト栽培 講師:春木 バス移動 ▽梶原耕藝 減農薬トマト栽培 講師:梶原 自家用車5台分乗移動(梶原、佐藤、兼瀬、木山、岩田、内田)			15:00～農場からJA加工所合流し道の駅通潤橋へ	15:30～バス乗車@道の駅通潤橋			
	バス	ジビエ		文楽館		バス	清和高原天文台			バス	エネルギープラザ外清和農場近くの路肩停車→JAかみましき清和加工所で合流			バス						
コース③ 蘇陽馬見原地区 (30名) +3名	～10:15 馬見原交流広場到着	10:15～12:30 山都町商工会蘇陽支所・馬見原地区の説明(寺崎) ロゲイニング馬見原コース(寺崎、吉住) 5名@6グループ			12:30～13:30 昼食 @山都町商工会蘇陽支所・交流広場			14:00～15:00 自然散策フットパス@馬見原商店街 講師:寺崎、他力 5名@6グループ			15:00～移動@道の駅通潤橋へ	15:30～バス乗車@県大へ								
	バス	肉のみやべ前で学生降車後、馬見原交流広場待機			バス	通潤橋駐車場			バス	円形分水で学生降車後、通潤橋駐車場待機			バス							



アンケート結果

学生10代女性

空気と食事が美味しく、自然環境が良好に維持保全されている様子が現地散策することで理解できました。文楽体験では昔話のストーリーを聞きながら、現代に照らし合わせた時に日常と非日常の演出、見せ方の工夫で普段の生活スタイルの味わい方が変わる気がしました。トマトも美味しく、貴重な農村の生活体験になりました。

ファミリー向けモニターツアー 2 回目の様子や参加者からのFB内容

令和7年11月1日から11月2日 15:00~9:00 モニターツアー参加者：大人4名、小学生6名 計10名 3家族



①山都竹琉事務所横畑



②白糸棚田散策と夕暮れ、幻想的な月夜



③夜なべ談議と意見交換



④翌朝の九州脊梁の眺望

野口友人のたんぼキャンプを数多くこなす草野氏に野外キャンプガイドを依頼し、山都竹琉事務所横の眺望の良い畑でテントキャンプを実施した。稲作体験と合わせてバリエーションが増えると考えれ、魅力ある体験コンテンツの検証となった。

アンケート結果

30代女性の声 Kさん

展望もよく、周りの音も聞こえず、子どもたちものびのび遊べたと思います！トイレも隣接施設を使うことができ、女性でも安心して利用できました。建物に背を向けて立つと人工物もほぼ見えず非日常感を味わうには最高のロケーションでした。夕方、日の落ちる時間には子供達も「映える映える」と写真撮ってました。外トイレと炊事場があればプチキャンプ場として貸切などにちょうど良いかなと思います。

ファミリー向けモニターツアー 3 回目の様子や参加者からのFB内容

令和7年10月25日 10:00~15:00 モニターツアー参加者：大人20名・学生3名 計23名

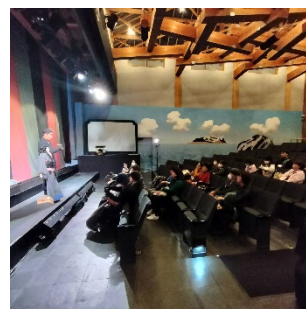
熊本県立大学の同窓会組織の有志を募り野口ガイドのもと、白糸棚田、円形分水、通潤橋までの水の流れ、治山治水や農業との関係を説明。文楽鑑賞や文楽弁当を食してモニター満足度も非常に高く、文化と歴史探訪の王道コンテンツの検証となった。



①通潤用水と円形分水



②通潤橋の放水見学



③清和文楽鑑賞



④文楽体験の様子

取組内容詳細：モニターツアー実施とガイド養成及び受入体制の構築

・モニターツアー実施（エコツアー/農村体験/教育プログラム：別スライド）

対象	日付	内容	参加人数	対応ガイド
学生	9月11日	通潤橋散策、農作業、文楽	99名	野口他10名
留学生	10月11日	水源探訪、稲刈	10名	野口他1名
企業	8月30日	水田除草、水源探訪	5名	野口1名
	10月18日	稲刈、羽釜炊飯	10名	野口1名
ファミリー	10月25日	通潤橋・棚田散策、文楽	23名	野口1名
ファミリー	11月1日	水田散策、野外キャンプ	10名	草野1名
留学生	1月24日	竹林整備、イチゴ狩、羽釜炊飯	8名	野口他6名

・ツアーガイド人材育成及び発掘（2～3名）→6名

モニターツアーを通じて山都町の良好な環境を体験できるモデルルート開発とコンテンツ毎のガイド人材の発掘及び養成に取り組み、**1/24にスポット人材6名（苺農園：中畠、池田、農泊食育：八田、榎本、竹林：吉岡、棚田：加藤）ガイド育成を実施した。**

・インバウンド顧客を受け入れる民泊施設の増加（2～3件）→5件

留学生ツアー時に民泊施設への受け入れを行い、**10/11「もみじ屋」、1/24「山都でしか」、**
「ヤマトタケル」の3件を達成、ほか2件「おにぎりゲスト、コンパスホ」受入施設の拡充見込み。

対策

- ・ターゲットを絞ったモニターツアー実施の経験を積み重ね、ガイド養成も兼ねながらモデルルート開発へつなげる。
- ・宮氏の助言をもとにガイド資料化してガイドトライアル実施。（別添：ガイド資料）

取組内容詳細：地域ガイド育成（2～3名）

① 羽釜炊飯実演及び地域ガイド育成 1/21

1/24の留学生モニターツアーにおける地域ガイド育成として、ゲリラ炊飯という炊き出しスペシャリストのONESLASH（株）お米生産部隊隊長の中筋氏を講師に迎え、羽釜炊飯ガイド実習として八田、榎本、吉岡、加藤の4名を対象に、中筋氏の推奨により購入した羽釜炊飯セットを使用して実演会を実施した。薪の量と配置、むらしや仕上げの火力調整、炊き上げ時の演出と、何気ない声掛けがポイントになるとのこと。



①実習中の八田・榎本氏

② 有機米の美味しさ座談会 1/21

炊飯実演後、米のスペシャリスト（五ツ星お米マイスター/米・食味鑑定士）の小野寺氏、有機玄米を提供するレストラン無為自然の新居氏と中筋の3氏を交えて、矢部高生や一般農家の合計60名の参加のもと、有機玄米の魅力について意見交換を行った。



②実習中の吉岡・加藤氏

③ 「山都でしか」 1/24～1/25

- ・ 農泊事業を展開する地域おこし会社「山都でしか」の農村体験プログラムに吉岡、加藤が参加し、イチゴ狩り、パフェ作り、羽釜炊飯と食事づくりなど、各プログラムを通して地域ガイド育成を行った。
- ・ 吉岡：竹、加藤：稲作の、各フィールドでどのように表現方法をアレンジするか、問いも含めて再考する良い経験となった。問い：持続可能性、自給とは何か？

加藤氏のコメント：稲作に置き換える場合、お米の種類、農法、販路、食べ方、健康、食育など自立と持続をテーマに、山都町の循環と持続を考え、自分には何ができるのかを探求していく気付きを得た。



③座談会の小野寺氏



④座談会全体の様子

取組内容詳細：民泊施設 受入体制整備（2件から3件）

①「もみじ屋」 10/11～10/12

- ・留学生を対象にしたモニターツアーにおいて、インバウンド民泊受入を依頼、立派な日本家屋で庭園も充実している施設。コミュニケーションのためのお互いのお国情報や事前の情報共有、多言語ツールの必要性を実感。今後も事業に積極的に協力してもらえとのこと。



②「おむすびゲストハウス」 11/27

③「コンパスラボ」 12/4

- ・熊本県庁主催のシン農泊推進塾に参加し、町内で唯一インバウンド対応の「おむすびゲストハウス」、「コンパスラボ」のオーナーが事例発表され、意見交換を通して事業協力を依頼したところ前向きな回答を得て、後日12/4にコンパスラボ訪問した。



④「山都でしか」 1/24～1/25

- ・農泊事業を展開する地域おこし会社「山都でしか」の八田邸に民泊を依頼し、いちご狩りや羽釜炊飯などの農業体験を実施した。自転車で世界一周した経験のある榎本氏がガイド対応しており、今後、複数の施設展開を計画中とのこと。受入体制整備及び事業推進に協力的である。



インドネシア国バリ市 10/27～10/31

- ・世界的な観光地のため魅力的な観光資源の掘り起こしと地域の特徴・自然資源を活かした取り組みが確認できた。**世界遺産⇒棚田の可能性の気づき**
- ・熊本県立大学とMOU締結するナショナル大学が幹事を務める環境国際学会にてプレゼンする機会を得て、**「チャ・ポジティブ」視点で分科会で表彰**（写真上）。
- ・学会関係者とユネスコ世界遺産のジャティルイ棚田（写真右）やタナロット寺院などの観光名所巡り、アヤナリゾートに宿泊。
- ・**アヤナリゾート経営オーナー（オーナー夫人は熊本県出身：写真左）と人材交流も含めて意見交換し、熊本県知事も参画するNPO熊本インドネシア友好協会との情報交換ができた。**



台湾 台北市・高雄市 11/1～11/3

- ・熊本県立大学とMOU締結する国立台北科技大学の王教授（写真左）や山都町出身の学生が在席する高雄の樹徳大学（観光管理学科：写真中央）、台北市近郊の有機農業教育ファーム（写真右）や観光ツアー会社を数社訪問した。
- ・**野鳥観察を得意とする悠鶴旅行社（常駐日本人スタッフ3名）と情報交換でき、双方向のツアーの宣伝告知のツテができたことは、今後の展開において良い機会となった。**野鳥観察に加え有機農業の食事を組み合わせるなど、活発な意見交換ができた。



今後の展望

- ・熊本県の台湾観光推進アドバイザー（高雄在住）や高雄の教育高官との面談を踏まえ、台湾・日本との双方の誘客につながるように連絡を密にしていく。
- ・大学や民間会社のネットワークを活かして、現地とのパイプ作りに努める。

地域内連携リスト

★：応募者 ◎：連携済		活動団体の種別	所属 氏名 肩書	担当：役割
★	① 山都町	地元企業	(株) 山都竹琉 川部社長： 野口取締役：、荒木事務員：	事業全体統括 事業運営・管理、庶務会計
◎	② 山都町	地方公共団体	山都町役場 商工観光課 木野係長：	広報、普及啓発、熊本県・くまもとDMC事業連携 インバウンド清和文楽PR兼ガイド
◎	③ 山都町	地元企業	株式会社 円(Maro)下田代表：	食育コーディネーター、お茶ガイド
◎	④ 山都町	地元企業	(株) 山都でしか 八田社長 榎本：マウンテンバイク 中畠：いちご農家 鳥越：山都有機農業学校校長	民泊施設インバウンド連携 有機農場・畑ガイド いちご観光農園ガイド 有機畑コンシェルジュ
◎	⑤ 山都町	地元企業 インバウンド民泊	一社) コパスホ 管代表・谷山： もみじ屋 荒牧夫妻	山都町観光ガイド・民泊（日本家屋） 民泊（日本家屋）
◎	⑥ 山都町	地元企業	カダブラ（株） 佐藤社長 福山：フィリピン駐在員	多言語ツール開発 事業PR@フィリピン
◎	⑦ 山都町	農林水産事業者	山都町有機農業協議会 堀会長：	有機農業の各種体験、有機稲作体験ガイド
◎	⑧ 山都町	農林水産事業者	山都町竹資源利活用協議会 加藤：、吉岡：、上田：	竹林整備体験、たけのご堀ガイド
◎	⑨ 山都町	観光事業者	ECO九州ツアーリスト(合同) 寺崎代表：	事業協力・プログラム企画、山ガイド、エコツアーガイド
◎	⑩ 山都町	観光事業者	南阿蘇交通（株）	事業協力 町内外の移動
◎	⑪ 山都町	学校・教育機関	熊本県立矢部高校	教育ツアーモニター
◎	⑫ 山都町	学校・教育機関	やまと高校（広域通信制）	教育ツアーモニター・スクーリング
◎	⑬ 熊本市	学校・教育機関	熊本県立大学 学生・留学生 宮本：	企画アイデア創発、学生ガイド：台湾・西欧滞在経験
◎	⑭ 熊本市	学校・教育機関	熊本朋友子ども中国語学校 項代表：	広西南寧市民主路小学と友好姉妹校締結（桂林） 中国語ガイド、山都自然体験ガイド
◎	⑮ 山都町	環境コンサル	ECO・JAPAN（株） 木山社長：	環境調査、バイオマス利活用アドバイザー
◎	⑯ 東京都	食育コンサル	無為自然 新居代表：	レシピ開発、食育コーディネーター（世田谷・新宿）
◎	⑰ 東京都	NPO・市民団体	NPO環境リレーションズ 研究所 鈴木代表：	関係人口創出（首都圏）、植林ツアーガイド@山都
◎	⑱ 熊本市	環境団体他	公財）地総研 宮野部長：	流域治水プログラムコーディネーター
◎	⑲ 熊本市	学識者・専門家	熊本県立大学環境共生学部 石橋教授（地域連携研究センター長）：	熊本インドネシア協会理事、JICA専門家 環境専門家による事業連携アドバイザー

本事業を通して実現する「保全と活用の好循環」の仕組み



9/11熊本県立大生モニターツアー
山都町散策の様子



8/30企業モニターツアー
通潤橋源流散策の様子

保全の具体的内容・方法

活用の具体的内容・方法

内容

- ・管理された**棚田がある風景は日本の原風景そのもの**
- ・有機農業や無農薬の田んぼには**ゲンゴロウやタガメ**など水生生物が多く、野山には**絶滅危惧種の日本カモシカやオオルリシジミ**、**希少な野草薬草が群生する自然共生エリア**で良好な自然環境が現存している。



- ・ターゲットとして**環境に興味関心の高い大学や企業団体を想定して**、具体的には環境系の大学や学部を中核に、加えて熊本に進出するTSMCやその家族など、山都でしか体験できない価値（得られる価値をどのように訴求するか）**ネイチャーポジティブ型のエコツアーを意識しながらモニターツアーを通してブラッシュアップ**。

方法

- ・**国宝の通潤橋を潤す源流域の田んぼに入り、竹資源を活用した「かぐや米」を食べ**、**治山治水や水の流れの仕組みを理解し稲作体験を通じて学び**、**歴史と文化と大地とのつながり**、**都市と農村との人のつながり**を実感できるプログラム「**食べる、学ぶ、つながる、育てる**」を軸に**ネイチャーポジティブ志向型の観光開発に着手**。

- ・熊本県をはじめ近隣自治体や大学間のネットワークを通じて、事業PRと同時に海外におけるエコツアー調査を行い、事業と親和性の高い**ヒト、モノ、コトを繋ぎ**、**熊本と関係性が深い海外（台湾・インドネシア）も含めてネットワーク化**、**関係交流人口の増大**、**都市部に向けてオーガニックなライフスタイルの情報発信**をしていく。

活用から保全への還元方法

- ・「**かぐや米**」栽培に必須となる堆肥や竹などの竹林整備や筍堀、**野草薬草の採取及び薬膳料理教室など食体験（食べる）**
- ・国宝の通潤橋に流れる**水源地の水汲み体験と治山治水や水の流れの仕組みを理解しながらの田植え稲刈りの稲作体験（学ぶ）**
- ・水物語の旅として清流で育まれた農産物と水生生物や昆虫などの**自然観察会や歴史と文化と大地との繋がりを実感（つながる）**
- ・清流米や有機農産物の産地を食べ支え、**良好な環境に配慮する心の芽生えを育てるネイチャーポジティブプログラム（育てる）**
- ・インバウンド、企業・教育機関向けの観光・研修プログラムとして活動体験を通して、金銭的かつ人間的な還元を図る。

【R8年度取組】

①多言語ツール活用70-確立

- 多言語化ツール整備と実装に向けて、7年度に開発した多言語ツールを使用し、必要に応じてカスタマイズ。

熊本県へのインバウンド客への利用度を上げるため、熊本県や山都町の自治体と連携協定締結した(株)くまもとDMCとの連携を強化。

②農泊・体験コンテンツ拡充 ③モデルルート開発・ガイド拡充

- モニターツアー実施とガイド養成と同時進行でコト消費のコンテンツ・ガイドの拡充：**農泊モニターツアー**を実施。
- ツアー差別化に向けて**自然及び農林業環境を活用した**観光資源の磨き上げ・掘り起こし着手**(水路・石橋・棚田・滝等)山都町ならではの唯一無二のストーリーを可視化する。

③インバウンド受入民泊の拡充 拡充コンテンツ観光パッケージ化

- モニターツアー受入を通して山都町のファン構築に向けた長期滞在型プランの構築図りながら**インバウンド対応可能な民泊施設を増やす(2~3件/年)合計5件**。
- 拡充したコンテンツを活用した観光パッケージ化とターゲットに合わせた販路構築

④海外大学・企業販路拡大

- 海外調査と並行し、調査実施国等の大学や地元の高校と連携し、カリキュラム化に向けた課題整理
- 台湾、インドネシアを皮切りに、熊本県内に多い中国、フィリピン、ベトナムからの特定技能外国人を対象に、**同国大使館や民間企業(TSMC等)へモニターツアーPR実施**

想定する成果

ツール開発を行うカダブラ(株)代表が熊本県・大津町のDXアドバイザーを務めており、熊本県は令和7年度より、知事や市長をはじめ台湾、インドネシアとの交流促進を加速化させているため、事業との親和性が高く、ツールの利用度と翻訳精度が高まる効果を期待。

想定する成果

- ターゲットを絞りつつ**農泊モニターツアーを実施し、移住組や若手のガイド養成も兼ねながら、山都町の良好な環境を体験できるモデルルート開発**とコンテンツ拡充のつなげる。
- コンテンツ毎のガイドの資料化、ガイドトライアル、スルー・スポットガイド人材養成(棚田、有機農業、竹林、食育等)

想定する成果

- タケノコ堀、稲作体験、自然観察、棚田サイクリング、源流水汲み等の自然体験プログラムと連動させた観光パッケージ化を目指し、**モニターツアーを訓練として通常の民泊施設においてインバウンド対応免疫を育て受入施設の拡充を図る**。
- ターゲットに合わせた販路構築と販売体制を整備。

想定する成果

- 高校や大学及び企業連携を通して交流を進めることで安心と信頼感があり、台湾・インドネシアは**企業インターンシップ**に熊本県が力を入れているため、町県との行政連携を強化することで相乗効果が見込まれる。
- インバウンドのみならず若手のアウトバウンドを意識しながら、取り組みを進める**。

R8年度のゴール

①多言語化ツール実装により**言語障壁が少ない受入体制**、②**農泊実証**、③**モデルルート開発とガイド養成(R7選定ガイドの実働)**、④現状の取組を山都町全体、県全体の取組に拡大すべく自治体や県との連携体制を強化し、**販売体制の整備と受入体制及び受入施設の拡充を図り、海外からの大学関係者の受け入れを目指す**。

想定される課題

恒常的な受け入れに係る地域側の受け入れ体制構築(専門知識の共有・民泊受け入れ施設の質向上・多言語ツールを活用した円滑なコミュニケーション)